

### 磐城節は一拍子その4

磐城節は、甲子園で歌いたい。高校時代、1年生の夏に甲子園に応援に行けた。野球部が決勝戦を四対三で勝ち抜いたのである。場所は、平球場であった。三年生の先輩たちが輝いて見えた。応援団の団長は確か鈴木先輩であった。現役で福島医大に合格した。

応援の旅は1泊11日の長い旅行だった。京都に宿泊して、甲子園に応援に通った。長崎の諫早高校に勝ち、秋田の秋田商業に勝ち、準々決勝は、千葉の習志野だった。その時の習志野のピッチャーは、今のヤクルトスワローズ監督の小川選手だった。暗闇が甲子園に降りてきて、カクテル光線の中、ナイターだったのを覚えておる。試合は、16対0と一方的に敗れはしたが、やっといわきに帰るのだと何かほっとしたのを覚えている。

1泊している間は、京都の旅館に泊まり続け、8時から2時間ほど応援の練習を済ませると自由時間となるのだった。そのころの京都は、チンチン電車が街中を走り、どこへ行くのも50円で行くことができたと思う。

金閣寺、銀閣寺、竜安寺、広隆寺、北野天満宮、嵐山、渡月橋、清水寺、鹿威しの詩仙堂、平安神宮、二寧坂三寧坂等々に行った記憶がある。しまいには、行くことがおっくうになって、昼寝ばかりしていた。友人達は、さすがに勉学に励むのを忘れなかった。私などは、すっかり旅の恥は掻き捨て気分、時に本校の試合がない時にも甲子園に行って、東海大相模の原辰徳のプレーを見たことも覚えている。

同級生の中には、この旅を終えて勇躍野球部の門をたたいて入部した猛者もいた。私は、三週間だが野球部に入ったのち、退部の願いをその当時の山崎部長と青木監督に申し出て許可されてやめた経緯があるので、今からもう一度野球部に入ることはできなかった。

2年生の夏も3年生の夏も甲子園には行けなかった。その後、10年がたたないと、本校は甲子園に行くことはなかった。その後、また10年後に甲子園が現実となった。その時の磐城高校とは、3回戦で田村高校監督として戦っている。3対2で敗れたが、善戦した。決勝は、開成山球場のスコアボードの裏から見ていた。米倉選手がホームランを打った。広瀬監督が宙に舞った。本当に良かったと思った。それから後は、24年遠ざかっている。

だから、磐城節を甲子園で歌いたい。校歌を甲子園で歌いたい。生徒会歌を甲子園で歌いたい。生徒とともに歌いたい。高校1年生の時に経験した甲子園を高校教師生活最後の年に経験することができたら、こんな素晴らしいことはない。

甲子園で歌うことになれば、応援練習の意味と根拠が明確になる。磐城高校生徒諸君に、雌伏24年目の夏、炎天下の甲子園球場を経験させたい。

暑い夏がやってくるぞ。あのコバルトブルーの夏がきっとよみがえる。